

学校教育目標	「自分が輝く みんなも輝く」 ○自分から進んで学び、経験や知識を活かしていく力を育てます。(知) ○自分を大切にし、人に優しくできる心を育てます。(徳) ○自らの健康を見つめ、体力を高め、たくましく生きようとする態度を育てます。(体) ○丸山台のまちを愛し、よりよい地域や社会に向けて自分の役割を果たそうとする態度を育てます。(公) ○広い視野をもち、未来に向けてともに生きていく力を育てます。(開)				
	創立 42 周年	学校長 倉本 恵	副校長 足立 憲昭	2 学期制	一般学級：12 個別支援学級：4
学校概要	児童生徒数： 339 人 主な関係校： 丸山台中学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	丸山台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	丸山台中学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校	○いつも元気よく、相手や場に応じたあいさつができる子ども ○自他のよさを認め、人とのつながりやかかわりを大切にできる子ども ○主体的に学習に取り組み、学んだことを生活にいかそうとする子ども ○積極的に地域社会にかかわろうとする子ども ○小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観および研究協議の機会を年2回設定します。 ・担当者会議を年4回設定します。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定します。

中期取組目標	<p>◎子ども一人一人の自分づくりに関する力を伸ばすことを大切に、「チーム丸山台」として全職員で活気と魅力ある学校づくりを目指します</p> <p>○「学校四期制」「食の学び」「交流・連携」の3本柱の内容を、with COVIDの状況下での見直しや修正を行いつつ、本校が大事にしてきた特色ある教育活動を継続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からめあてをもち、自分らしさを発揮しながら夢中になって粘り強く取り組む教育活動に取り組みます。 ・「食」の学びを中心に、健やかな体と豊かな心を育むとともに、広く社会に目を向け、共に活動する姿勢も育みます。 ・異学年、異校種交流や地域との連携も含め、様々な場面で自尊感情や自己有用感を育みます。 ・コミュニケーション能力を高め他者の思いに寄り添い、誰もが安心して豊かに生活できるようにします ・まちや社会で働く人との出会いや学びを通して、自分の将来への夢や希望をもって生きようとする態度を育てます。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①各教科において単元や毎時間のめあてを明確にするともに、個々の児童の課題を把握し、計画的な指導を行って学力定着を図る。②児童の主体的な課題解決のために、必要感のある学習課題を設定し、日常生活に還元できるようにする。③児童同士が考えや思いを伝え合い、高め合える環境設定を工夫する。
	担当 指導部評価・重点研	
徳	人権教育	①できることを増やす体験を通し、自尊感情や自己有用感を育む取組を推進する。②学習活動に対話の場面を多く取り入れ、見方・考え方を広げたり深めたりできるようにする。③豊かな心の育成を目指し、道徳科と特別活動を要として、学校の教育活動全体を通じて行い他者の思いに寄り添う心情を育む取組を推進する。
	担当 指導部人権児童指導 道徳	
体	健康教育	①児童の体力向上のために、まずは運動を楽しいと思えるような心情・姿勢を育てる。また、運動能力と体力を支える生活習慣について理解し、自分自身のめあてを設定し、生活の中で実践できるようにする。②保健体育では、食生活のあり方を含めたよりよい生活習慣を主体的に考え、健康の保持増進を自ら図る態度を養う。
	担当 体育部 保健給食	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①各学年で食の学びに取組み、「食」とのつながりを知り、感謝の気持ちをもつとともに、食の安全安心と課題について知り、伝え合う。②地域の人々と関わり、様々な職業について考えるとともに、自分たちが住むまちのよさや伝統に気付き、これからの自分について考える。③「自分づくりパスポート」を継続して成長の様子を可視化し、保護者とも共有して「つなげ・求め・見つめ続ける」力の育成を図る
	担当 指導部キャリア・環境 特活	
いじめへの対応		①児童の日常を全職員で見守り、情報共有しながら、いじめの早期発見に努め、いじめ、問題行動には関係機関も含めた組織対応で解決していく。②Y-Pアセスメントや児童アンケートでの結果をはじめ、いじめ防止対策委員会での各事案の精査を拠り所にし、いじめの未然防止の手立てを発信する。
担当 いじめ防止対策委員会		
特別支援教育		①ユニバーサルデザインの視点から学習環境を整える。②コミュニケーション能力向上のために、SSTや横浜プログラムの活用、実践をしていく。③職員会議や校内委員会で情報共有を行い、支援の仕方を検討し、一人一人の支援に生かしていく。個別の教育支援計画・指導計画を活用していく。
担当 特別支援教育委員会 個別級		
児童生徒指導		①一年を四期に分け、「自分づくりパスポート」等で目標をもったり振り返ったりすることで、自己実現の力を育てる。②配慮を要する児童の実態や支援の方法、「学校生活のきまり」を全職員で共有することで、一貫した指導が継続できるようにしていく。
担当 指導部人権児童指導		
地域学校協働活動		①学区内の自治会や公共機関と連携した単元・授業づくりを行い、児童が地域社会に主体的に関わり地域の方の思いや考えを学び、より良い社会を創る資質・能力を育成する。②経営方針をはじめ、学校の様々な取り組みを学校だより等で発信し、学校・地域の相互の意思疎通を図りながら地域と協働した学校づくりを行う。
担当 外部連携部		
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームを組織し、互いに学び合い、授業力等を向上し合える研修を行う。全職員で研修内容を共有し、人材育成に取組む。②主幹教諭がリーダーとなり機動的に業務が遂行するしくみを構築する。③組織全体に効率よく確実に伝達することで、会議の時間短縮を実践して、働き方改革に繋げる。
担当 管理職・メンターチーム		